タダオくんは一点を見つめていた

タダオくんは一点を見つめていた。

あの道は、どっちが正しかったんだ？？

不安になって心がぐらつく。

慌てふためいて記憶の中が真っ黒になった。

ずっとそればかりに焦点を当て、意識を持っていかれていたが・・・・・・・・

そばにいたサエコさんがそっと耳元で呟いた。

「それはどっちでもいいことよ」

・・・・・・・・・・・そんなことより。

「政治社会に興味を持ちなさい」

タダオくんは自宅に戻り、

応接間の奥の本棚にしまってある高校の時の社会科の教科書を取り出した。

体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました。